

平成 29 年度一般社団法人水産海洋学会研究発表大会ナイトセッション

公設水産試験研究機関が収集・管理するデータ資源の利活用に向けて

主催:水産海洋学会活性化委員会

日時:平成 29 年 11 月 17 日(金) 18:00~20:30

場所:広島市西区民文化センター工作実習室

プログラム

- 趣旨説明:渡慶次 力・西川 悠・後藤友明(活性化委員会)
- 自治体研究機関・国研機関・海外におけるデータの利活用等の事例紹介
座長:西川 悠(JAMSTEC)
- 地方にあるデータの活用により期待される連携と成果
座長:渡慶次 力(宮崎水試)
 - (1)連携による研究ネットワークの構築
 - (2)副次的なデータ活用による成果の多様化
- データ・ポリシーと利活用の問題
座長:藤原邦浩(水産機構日水研)
- 総合討論
座長:渡慶次力(宮崎水試)・西川 悠(JAMSTEC)

開催趣旨

我が国では、明治期に設立された水産試験場および水産講習所を前身とする水産試験研究機関(以下、公設試とする)が全国各地に張り巡らされ、調査船を用いた観測のほか、漁業現場での漁獲実態把握や資源管評価等を通じて長期にわたる海洋環境や水産資源のモニタリングが行われている。特に調査船による海洋観測は、我が国周辺海域における詳細な海洋観測網構築に結びついているほか、小達コレクション等、世界に誇ることが出来る綿密なモニタリングとして位置づけられている。このような共通フォーマットに基づいたモニタリングのみならず、地域の公設試は、沿岸域を中心とする水産海洋研究との接点として、現場と密接に連携しながら多様なデータを長期にわたって取得している。このようなデータはその地域の海洋や資源の長期的な動態を把握する上で極めて重要な情報を有している。しかしながら、労力の割には短期的に結果を得ることが難しい長期にわたるモニタリングは、予算や人員の削減が進む中、優先度が下がってきているのが現状である。このようなデータは過去の変化を知る事が出来る唯一の情報源であり、様々な研究分野で活用可能な情報を多く含んでいるにも関わらず、十分に活用されないまま埋もれてしまっている例も少なくない。そこで、本セッションは、地方の公設試が長年にわたって収集してきたデータを有効に利活用する上での問題点を整理し、意見交換することを目的とする。